

日新輝道



東大阪市立日新高等学校

校長室通信 2022.10.03発行

返事！あいさつ！声！ダッシュ！！

「勝因」とは「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」、「敗因」とは「いい加減」「適当」「だいたい」、
今すぐできることは「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を徹底し、日本一輝きを放つ学校を目指します！

「勝因」と「敗因」、どちらを選択するかは日常の習慣で決まる



日頃、生徒の皆さんには、「勝因」とは「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」であり、「敗因」とは「いい加減」「適当」「だいたい」であると伝えていきます。しかし、「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」に取り組む「勝因」においても、結果に結びつくまでには時間のかかることがたくさんあります。つまり、「継続」することの大切さであり難しさでもあります。ただし、自分の意識ひとつで、今すぐ、誰にでもできることがあります。それが、「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」です。しかし、この

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」でさえ、いつでも常に実行できるかという、そう簡単ではありません。特に自分が劣勢にあるとき、気分の向かないときなどは、ひょっとすれば難しいと考える人もいるかも知れません。この「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を常に実行するためには、「人格」を磨く必要があります。実は、この「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を、いつでも簡単に実行できる方法があります。それは、この「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を「習慣」として身につけることです。

先日の全校集会では、「エラーを2つ重ねないこと。」についてみなさんに伝えました。エラーを2つ重ねてしまうと大きなミスにつながってしまいます。なぜ、エラーを2つ重ねることが大ピンチに繋がるかという、往々にして2つ目のエラーが「いい加減」「適当」「だいたい」といった「敗因」に繋がる雑なことが多いからです。「勝因」である「一生懸命」に、「ていねい」に、「ひたむき」に取り組んでいてもエラーは起こります。しかし、2つ目のエラーは「敗因」である「いい加減」「適当」「だいたい」といった雑な要素を含んでいることが多いからです。

9月に第2回のオープンスクールが開催されましたが、そこに参加してくださった方々、特に保護者の方々から、PRスタッフをはじめとした日新高校の生徒の活躍をととても評価してくださいました。「感じがいい」「爽やか」「一生懸命が伝わる」といった内容でした。司会やプレゼンテーションを担当してくれていた生徒も、当日は原稿読みなどでミスがありました。しかし、そのあとの振る舞いがとてもていねいだったので、好感を持たれていました。原稿読みなどでミスがあったとき、そのあとを笑いでごまかすような態度をとって雑に振舞っていたら、きっとその様子は、嫌な印象しか残らなかったことでしょう。この2つ目のエラーを重ねないこと

に対して、意識を高く持たなければならない場面は日常にもたくさんあります。「失敗をして素直になれず言い訳をしてしまう。」「自分のミスを自分だけではないと責任を転嫁させる。」「うまくいかないのは人のせいだと考える。」「借りた物なのに、適当な返し方しかできない。」「時間に遅れているのに急がない。」「あいさつをされているのに返しもしない。」など、こうしたことはたくさんあります。これらは、「勝因」と「敗因」の分かれ道となる分岐点であり、日常にはたくさん転がっています。やはり、日常の「習慣」がとても大切です。物事を「一生懸命」に「ていねい」に「ひたむき」に取り組んでいるときには、その様子は輝きを放っています。日新高校は、「日本一」輝きを放つ学校でありたいと願っています。今すぐ、誰にでもできることを実行し、積み重ね、心の鍛錬をし、輝きに磨きをかけて欲しいと思っています。

「夢を見よう、そして話そう」

～スキージャンプ、小林陵侑選手から高校生へメッセージ～

「高校生の皆さん、今、夢はありますか？私の経験上、夢を持ち、その夢を友達や家族など周囲に話すことにより、自分に関係する方々がアドバイスや支援をしてくれるようになります。そのアドバイスを素直に聞き入れ、夢に向かって努力することにより、夢は叶うと私は信じています。そして夢が叶うと次の夢が出現する…というように、夢は次の夢を呼び寄せる力があります。高校生の皆さん、必ず夢をもって学校生活を送ってください。そしてその夢を周囲に話してください。学校の先生をはじめ自分に関係する周りの方々が、必ず夢に近づくアドバイスをしてくれると思います。」



これは、ある雑誌に掲載されたスキージャンプ小林陵侑選手のメッセージです。小林選手は高校時代に世界大会で優勝するという夢を持っておられたそうですが、その夢は叶いませんでした。そして、引き続きその夢を持ち続け、土屋ホームスキー部に入社され、レジェンド葛西紀明選手に出会われました。葛西選手は積極的に自分の夢や目標を周囲に話し、周りを巻き込みながら進化していくような不思議な雰囲気を持つ先輩だったそうです。小林選手は、葛西選手に触発されるように、自然と積極的にチームメイトやスキー関係者に自分が何を考えていて、何をしたいのかを話すようになり、そうすることにより、たくさんの方々からアドバイスをいただくようになったそうです。社会人2年目の頃から、周囲のアドバイスを素直に聞き入れて、自分なりにアレンジし実践する柔軟性が養われたような気がすると話しておられます。

以前、日新高校にお招きをして講演をさせていただいたシドニーオリンピック女子ソフトボール銀メダリストの田本博子さんは、指示されたことに対して、すべてに「はい」と返事をし、全力で行動し実践したと話されていました。前人未到の3000試合出場を果たされた野村克也元監督は、「高い山に登れば、その向こうにあるさらに高い山が見える。」と話されています。今、自分ができることを「一生懸命」に、「ていねい」に、「ひたむき」に積み重ねてください。「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」で夢を引き寄せ叶えてください。